

第1学年社会科(歴史的分野)学習指導案

平成23年10月13日(木) 5校時

1年教室 指導者 億岐 史人

1. 単元名 古代までの日本「古代国家の歩みと東アジア」

2. 単元目標

- 国家のしくみが整えられたことや天皇・貴族の政治の展開のあらましや文化などに対する関心を高め、意欲的に追求している。(関心・意欲・態度)
- 6世紀から12世紀頃までの歴史の流れと時代の特色について、政治の様子や人々の生活から多面的・多角的に考察している。(思考・判断・表現)
- この時代に関わる資料からわかることを適切に選択・活用し、追求した結果をまとめたり説明したりしている。(技能)
- 大陸の文物を取り入れながら国家のしくみが整えられ、天皇・貴族の政治が展開されたことを理解している。(知識・理解)

3. 学習の基盤

○ 単元について

本単元は、歴史的分野の内容(2)古代までの日本の内容であり、人類の出現から大和の成立までと古代国家の歩みと東アジア世界で構成されている。具体的には、世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島における農耕の広まりによる人々の生活の変化、大和朝廷による統一と東アジアの文明の影響を受けながら国家が形成されていくこと、律令国家の形成や摂関政治などを通して、天皇中心の政治が展開したこと、仏教の伝来や仮名文字の成立などを通して、国際的な文化をもとにしながら日本独自の文化が形成されていったことを学習する。4～5世紀にかけて大和朝廷により統一された日本は、大陸からの文物を導入して国の基礎を固め、有力な豪族の力を借りて天皇が政治の中心となっていく。3世紀後半から7世紀頃にかけては古墳時代といわれ、有力者の大規模な古墳が全国各地につくられる。はじめは、近畿地方の有力豪族が中心であったがその後全国に広がり、日本全国の古墳の形態が円墳、方墳、前方後円墳と統一性が見られることからこの古墳が多くつくられた時代に日本が統一国家としてまとまりを見せてきたことがうかがえる。7世紀には唐の制度にならい律令政治をつくり、土地や人民は、豪族の支配から離れ国のもの(公地公民)となり、税制のしくみも整えられ、人々は国防にも従事するようになる。しかし、8世紀頃にはこの制度も崩れ、貴族が土地を私有して荘園にし、貴族が土地と人民を支配していくようになる。

○ 生徒について

… <個人情報保護のため省略> …

○ 指導観

学習指導要領では、身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりの中でわが国の歴史を理解させるとともに、歴史の学び方を身に付けさせるとある。このことは新学習指導要領でもほぼ同じである。また、隠岐の島町教育委員会が中心となり「ふるさと隠岐」を作成し、さまざまな教科等でふるさとを大切にする教育も推進され、隠岐郡教育研究会の社会科部会においても長年「郷土と授業」をテーマに授業実践と郷土の教材の発掘を行っている。

古代の日本の単元は、現在の子どもたちの生活からかけ離れているということ、資料が乏しいため、当時の人々の生活を知る手がかりが少なく、生徒の意識も他の時代と比べて興味や関心が低くなる傾向がある。また、人類の誕生から平安時代が終わるまでと扱う時代が長いこと、中学校の歴史的分野の学習が本格的にはじまる単元となることから身近な歴史資料を取り入れながら生徒たちが主体的に学習できる工夫をしなければ、社会科嫌いの生徒になってしまう恐れもある。

本時の学習は、聖徳太子の政治や大化の改新という歴史的政変を通して、日本の国が天皇を中心に一つにまとまり、天皇や貴族の政治のしくみができあがっていく過程を学習する。学習形態は、グループによる調べ学習とし、生徒が協力して主体的に調べ、まとめ、発表する学習にしていく。クラス

の人数は少ないが、グループ活動にすることにより、友達とのコミュニケーションから意見や自分の考えを出し合い、言語活動の充実を図るとともに思考力や表現力を高めるようにもしていきたい。そして、本時の授業では、各グループの発表を通して、この時代の特色を自分の言葉でまとめ、生徒各自がこの時代の特色を説明できるようにしていきたい。活用する資料は、教科書や資料集、郷土資料である「ふるさと隠岐」などを中心にし、郷土の資料や身近な地域の歴史を取り入れて、生徒の興味・関心を喚起し、ふるさとの歴史や文化を大切にする気持ちも育てていきたい。

4. 指導計画（全9時間）

次(時)	学習内容	評価規準
1 (1)	学習課題の設定 「どのような国づくりを目指したのだろう」 学習計画の立案	・学習課題の設定について教科書や資料や既習事項から調べる課題を意欲的につくろうとしている。 ・学習計画についてグループでの話し合いで意見を出し合っている。(関・意・態)
2 (4) 4/4 本時	調べ学習と発表 調査する学習課題 ・聖徳太子の政治 ・大化の改新 ・改新の詔 ・改新後の政治を行った人々 ・飛鳥時代の隠岐	・学習課題について、グループ活動を通して意欲的に取り組んでいる。(関・意) ・学習課題について教科書や資料集、副教材などを通して、グループ内で意見を出し合い考察している。 ・自分の調べたことや各グループの発表を通して、この時代の特色を自分の言葉で説明している。(思・判) ・教科書や資料集、副教材などを活用し、調べたことをまとめ、適切にまとめ発表している。(資・表) ・天皇、貴族中心の律令国家成立について理解している。(知・理)
3 (1)	奈良時代の人々の暮らし	・人々の身分の違いによる食事や暮らしの様子から奈良時代の人々の生活に関心をもっている。(関・意・態) ・口分田の不足から墾田永年私財法が出され、公地公民が崩れていったことを理解している。(知・理)
4 (1)	国際的な文化の開花	・飛鳥文化・天平文化の特色について関心をもっている。(関・意・態)
5 (1)	平安京と摂関政治	・平安京遷都から摂関政治に至る過程から政治の中心が藤原氏へ移っていくことを理解している。(知・理) ・藤原氏が勢力を強めていった過程を資料から読み取っている。(技・表)
6 (1)	文化の国風化	・遣唐使の停止による文化の国風化が今の日本の文化に影響を与えた影響について考察している。(思・判)

5. 本時の学習

(1) 本時のねらい

- ・調べたことをみんなに伝わるようわかりやすく説明することができる。(表現)
- ・自分の調べたことや各グループの発表を通して、この時代の特色を自分の言葉でまとめることができる。(思・判)

(2) 本時の展開

	学習活動	教師の支援と評価(ア) (イ)
導入	○駅鈴の音を聞き、何の音が想像する。	○駅鈴の音を聞かせ、本時の授業への興味・関心をもたせる。
展開	<p>○調べたことを発表する。</p> <p>ア 聖徳太子の政治改革 イ 蘇我氏の暗殺 ウ 改新の詔 エ 律令国家 オ 改新政治のころの隠岐</p> <p>・各グループの発表を聞いて、わかったことわからなかったことなどを各自で記入し、各グループ内で意見交換する。 ・グループで出た意見を発表する。</p> <p>○各グループの発表を聞いて、政治に関わった人々がどのような国づくりを目指したのかをワークシートに自分の言葉で書き、班内で意見交換する。</p> <p>・個人→班内での発表 ・各グループの代表者がまとめたことを発表する。</p>	<p>○グループ内で協力してわかりやすく発表できるようにするとともにしっかりとした態度で発表するよう支援し、必要があれば発表の捕捉をする。(ア)</p> <p>○ワークシートを用意し、発表の要点などを記入させ、グループ内で意見を出し合わせるにより学び合いの場をつくる。 ○難しく答えられない質問があれば、補足する。</p> <p>○机間指導を行い全員が書けるように支援し、班内での発表も全員にさせるようにする。(イ)</p>
終末	○本時のまとめ	<p>○駅鈴の使い方やどのように保存していたかを紹介し、歴史への興味や関心を高めるようにする。 ○この時代の全体的な流れがわかるよう年表等を提示する。</p>

(3) 本時の視点

- ・各グループの発表や説明を通して、この時代の特色をとらえることができたか。
- ・郷土の資料や教材を活用することによって、身近な地域の歴史に関心をもち学習を深めることができたか。

(4) 本時の評価規準

	A 十分満足できると判断される生徒の具体例	B おおむね満足できると判断される生徒の具体例	C 支援を必要とする生徒への指導の手立て
技 表 ア	・調べたことを自分で理解し、わかりやすくまとめ、友達と協力して聞き手を意識した発表をしている。	・調べたことを大きな声で伝えるように説明している。	・友達と協力して発表できるよう役割をもたせるなどの支援をする。
思 判 イ	・各グループの発表からわかることを考えて、大陸の文化や制度を取り入れながら天皇中心の中央集権国家が成立したことを自分の言葉で説明している。	・各グループの発表からわかることについて考えて、天皇中心の政治が成立したことを自分の言葉で説明している。	・書くことができない生徒は自分のグループのことを書かせ、グループ内での話し合いで友達の考えを聞かせるようにする。